

白玉楼

お姉ちゃん

妖夢お姉ちゃん

竹千代、只今戻りましたあ！

お姉ちゃん、どこですかあ？

お帰りなさい！

あつ！お姉ちゃん！

今日もかなり
買ったみたいね

はいっ！

けど、ごめんね

いつもいつも
買い出しお願いしちゃって…

面倒見てもらってる
せめてものお礼です

いえっ！

それにあの量もすっかり慣れました！

はいっ！
何かいつも
オマケしてくれて…

八百屋のおじさんに
気に入られたみたいね

あらあら



今日は家で
お礼させてもらいたいな…

ホッ

それも楽しそうだけど…



でもこんど何か
お礼はさせてね

わっ！

お礼ですか！
ならお姉ちゃんと
またお出かけしたいです！

あらそんなのでいいの？

はいっ！里のお店でも行きましょう！



えっ？
お家でって…

…お姉ちゃん？



あう…
あの…お姉…ちゃん？



んっ！
ぶえっ！

んっ

あの…
どう…したんですか？

ごめんね驚かせて…
えっ？
あっ！…あの…



わわわっ！

あつあの
幽々子様に見つかったら…

見つかったら？

えっ…
えっと…あの…



今日、屋敷には
誰もいないの…

幽々子様もね…

あつ…
そつ、そうなんですか…



お姉ちゃん今日のお稽古疲れちゃった…
竹ちゃんに癒してほしいなあ…

いつ、癒す…
あつ！

あの、
お風呂の準備なら今すぐっ！



ドキ

ドキ

んぐん！

もうっ！

何とぼけてんのっ！
もう何回もやってるくせに！

えつとあの！
買い出して汗かいたので
お風呂に入ってからで…

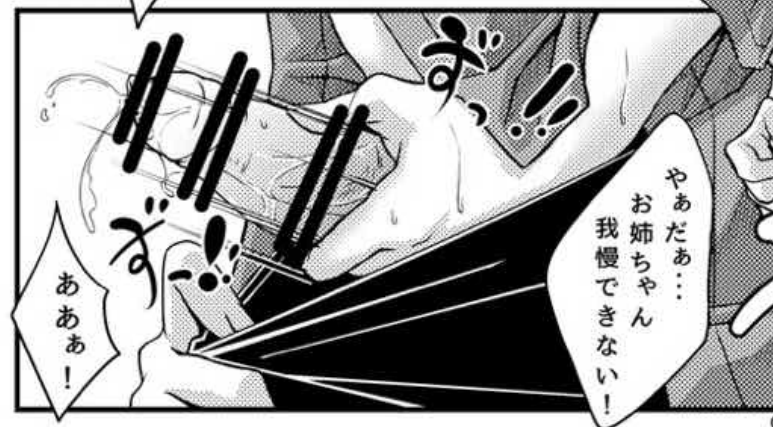


ええっ！

おっ！
お姉ちゃん！

ズッぽっ

やあだあ…
お姉ちゃん
我慢できない！



あああ！

初めての時は
ずうっとポカーンってしてたよね

慌てた顔が
可愛かったなあ

だけど、
オオンチンはしっかり
起ってて…

今みたいだね

は、



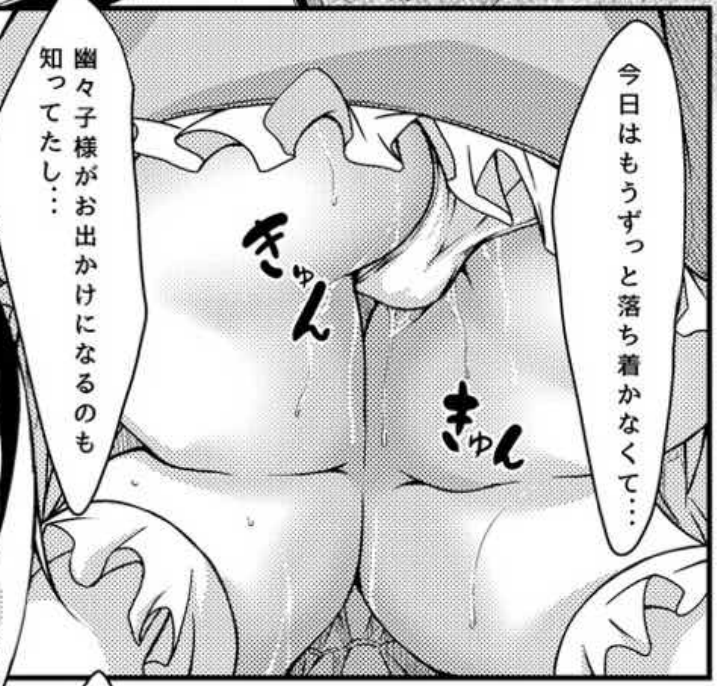
おっ、お姉ちゃん恥ずかしいよ…



あうう…

今日はもうずっと落ち着かなくて…

幽々子様がお出かけになるのも
知ってたし…



でもごめんね！
我慢できないのっ！

んあっ！



お姉ちゃん！

はあ

こんなお姉ちゃん
嫌だよね…

あっ！いえ…

はあ

ごめんね…



でも嬉しい：お姉ちゃんのこと
ちゃんと考えてくれてるんだ：



これは生半可な
お礼じゃだめかしら

また別のこととして
遊びましょ！

すーすー



もど

もど

ええ：

僕もう：

これ以上我慢できないよお：

何弱気になってるの！

えっ！
お姉ちゃん
これおあずけ！？



あまり見られるのも
恥ずかしいけど：



準備できてるから！

前に恥ずかしくて
やってやれなかったあれ：

やったげようか？



……本当に？

本当に！





ああ…もうそれは忘れてくださいあい！お姉ちゃんが好きだったからあ…

洗濯カゴからお姉ちゃんのパンツを盗ってオオンチンしごいてたのは誰だったかなあ…？

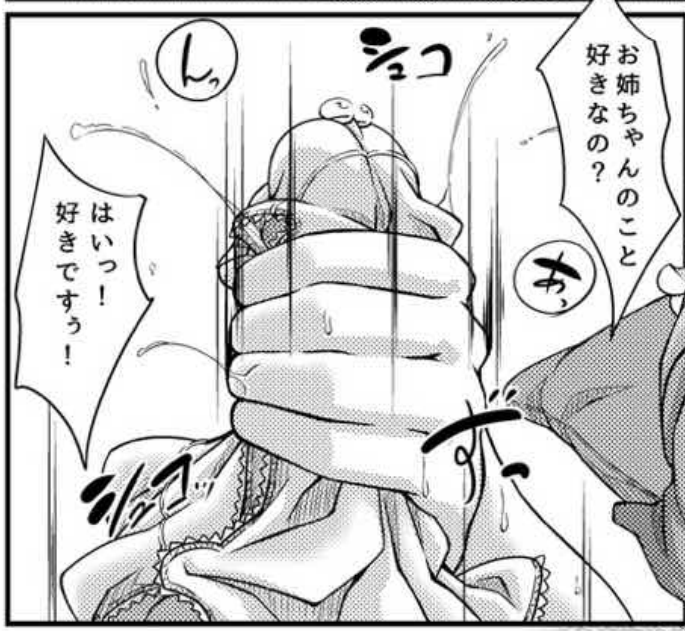


もう竹ちゃんは本当に甘えん坊さんでしゅねえ…

あっ…

そんなにお姉ちゃんのパantsが好きなんでしゅか？

はっ、はい…好きです…



はいっ！好きですう！

お姉ちゃんのこと好きなの？

あ、



なら…オオンチンからピユツピユツするのもう少し我慢できるよねえ…

ええっ！もう…もう我慢できない…



えっ…わかんないです…僕興奮してるのかな…

体…熱くなって…意地悪されて興奮しちゃった？竹ちゃん…

でもお姉ちゃんの手もすこく熱いよ…



おっ、お姉ちゃん！出ちゃう！出ちゃう！

あれえ？お姉ちゃんのこと好きなんじゃないの？

好きです！好きなのにい！



んっ…あつ！
出ます！出ちゃいます！

お姉ちゃん…



これ以上我慢させるのも
可哀想ね…

あつ！
あくっ…

よく我慢
できました！



お姉ちゃん…
パンツの中で出しちゃった…

うわあ…
量も匂いも強烈…

はあはあ…

あああ！出た出た！

竹ちゃん
すごーいいい！

ふぁっ！



こんなの穿いたら
お姉ちゃん妊娠しちゃうかも…

ほおら…

あう…



よく出まけたねえ…
我慢できてえらかったでちゅねえ…

あつ…
ありがとうございます…
はひっ…



僕もなんか
恥ずかしくて…

だね…

なんかこんな明るい
とやっぱり恥ずかしいわね…



お姉ちゃんに
甘えてばかりじゃなくて…

竹ちゃんも
私のことかまってるね

あっ！
はい！



近くで…
見てもいいですか？

…はい

ドキ

…ん
いらよおいで…



でっ、でも
僕がんばりますから！

…うん

竹ちゃんだけ
恥ずかしい思いさせられないもんね！



あつ、
あのもう行きますね！

あつ！
ちよつとまつ…
あつ！

ひああつ！



あつ、明るいから
本当によく…見えます…

いやあ…
やっぱり恥ずかしい…

あの
とっても
綺麗で…



なんか...
感じちゃう...あつ...

ああつ...

あぐつ...



んんっ!

お姉ちゃんのココ...
甘くて...イイ匂いで...

気持ち...悪くなんて
...ありません!

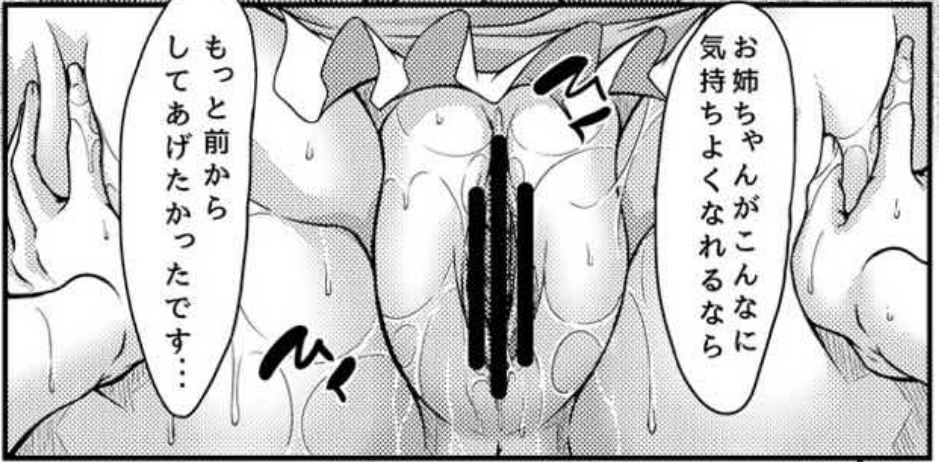
あつ!

竹ちゃん...んっ
気持ち悪くなったら
やめてもいいからね...



僕ばかり
してもらって...

いつも...



もっと前から
してあげたかったです...

お姉ちゃんがこんな
気持ちよくなれるなら



ああ...
私、貴方のこと

子ども扱いしてたかも...
ごめんね...

もっともっと
お姉ちゃんを気持ちよく
してあげます!



あああつ!
竹ちゃんが可愛いから!

これからは僕も
お姉ちゃんにしてあげます!

お姉ちゃん
もっとしてあげたくて!

いえ…
僕はまだまだ未熟で…

だけど！
お姉ちゃんを気持ちよくは
できません！

動かしませす！

あつ！いきなり！

ひあつ！

あああつ

あつ…あつ…

慌てなくて
いいからね…

はいっ！

今日は…あつ！
…大丈夫だから…

はっ、
はいっ！

ああつ
熱いのが…挿いって…

いつもより
大きく感じちゃう…



お姉ちゃんのこと
頑張って気持ちよくして!

まだまだ始めたばかりだよ!
これから!

あくあ...はいっ!



おっ、お姉ちゃん...

うん?

どっ、
どうですか...?
今日は僕、
うまくやれて...



本当に?
私、お姉ちゃんできてる?

あっ...

はいっ!
最高のお姉ちゃんです!

初めて会った時は
顔を見合わせるのも
恥ずかしかったけど...

貴方のオオンチンで
感じちゃってる!

もっと!
もっと突いてえ!



ひぐっ...
お礼してあげるつもりが...
竹ちゃんに頑張らせる形になっちゃって...

私...お姉ちゃん失格かな...?

そんなことないです!
妖夢お姉ちゃんは
最高のお姉ちゃんです!

ああっ!

んっ!

じゃぼ

交代しよつか…?
今度は私が上!

ええ…
それじゃいつもと同じで…
今日は僕が…

大丈夫!
今日は時間を気にせず
夜まで大丈夫!

そして…

今の時間は
私の…番っ!

ひああ!

ああああ…
なんか今日は…
私どうしちゃったんだろ…

ひあっ!

あっ!

お姉ちゃん!
お姉ちゃんっ!

お姉ちゃん…!

感じてる貴方の顔!
お姉ちゃんに見せて!

ほらっ!
上からだ
と
貴方の顔が良く見えるの!

ずっあゆ

んんっ!

んんあっ!

ああっ!

んああっ!



ほんと初々しいというか…
なんとというか…



妖夢お姉ちゃん…
こんなところ見られたら…

幽々子様…?

そうしたらもう
ここには住めないかもね…
……どうしよっか?



見てらんないわよ、
あんた達…

こんな真昼間に、
随分とお盛んなこって…

そつ、
その声は紫様っ!?

幽々子のいない間につて
感じだらうけど、

主のいない間に
楽しんでやうなんて、
従者としてどうなのよ…

あつ…あの…

ふえっ?



それに何い?
お礼だの、子ども扱いだの…

交じり合う人間の会話にしては
綺麗すぎやしない…?

楽しみつてのは
もつとこう大胆に!

グツ!つと
ガツ!つと!

やめてください!
ハッ!!
グッ!!
グッ!!



だから
やめてくださいっ!

いっ!
いっ!

それよりあんた達!
そんな可愛らしい
遊びじゃなくて

この私が
性の手解きを
してあげましょうか?



あつ...
あの紫様...そこに幽々子様は...

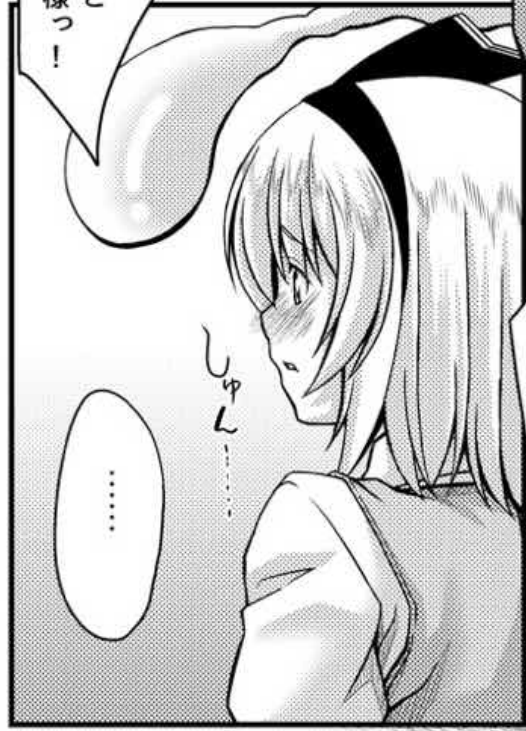
んっ?

ああ...
安心なさい、酔って寝てるわよ...



お遊びも
大概にね...
それじゃお幸せに...

ちょっと
紫様っ!



ちょっと!
どこ見てんですかっ!
紫様っ!

まあ...
可愛いお尻で...



それと、将来のためにも
体はあまり冷やすんじゃないわよ...

あんた半霊で元々体温は低いかもだけど
せめて布団でも敷いて...



私っていつも中途半端...
もつとちゃんと考えてれば...

大好きな人にお礼の一つも...
お姉ちゃん失格だよ...



...ごめんね...
えっ!あの...

私が調子に乗ったばかりに...
恥ずかしい思いさせちゃって...

いえ...そんな...

気分...
萎えちゃったよね

えっと...



お姉ちゃん...



続けますから!
お姉ちゃん!

えっ!
あの...竹ちゃん、無理しなくても...

無理じゃないです!

あああっ!

たっ、
竹ちゃん!えっと...

ほっ、僕は
大丈夫ですから!

お姉ちゃんは何も悪くないっ!



あああつ！
ふっ、深いいいいいいい！

そんなお姉ちゃんを泣かせるような
子に僕はなりたくないっ！

ひあああ！



お姉ちゃんはいつも
僕を見てくれて

んああ

いつも僕を助けてくれて
いつも僕を喜ばせてくれて…

あつ…



ひあああ！

もっ、もういいですか？
中に…んぐっ…中に出しますよ！

♡いいよっ！
中に！中に出してええええええ！



こんな僕のこと、
お姉ちゃんは
受け入れてくれますか？

んあつ！

そんなこと…あつ
聞かなくても…
私は…あくあ！



お姉ちゃん大好き！
一生一緒にいてくださいっ！

あああああくあ！
竹ちゃん好きいいいい！

とまあ……
あれだけの茶々を入れても
妖夢一筋の様子

何も心配せずとも
あの二人は大丈夫よ

なあんだ……
これで妖夢は竹ちゃんのものかあ……

ご不満かしら？

誰も損せず
それどころか一組の
ツガイが生まれた……

万々歳じゃなくて？

ツガイなんて……
まるでペットか何かみたいなきさね……

あら、そのペットに手を出して
嫌わるのが怖くて、こうやって私のところに
転がり込んでくる貴方はどうなの？

それは……
貴方だって楽しんでるくせに……

ねえ……幽々子お……
あの二人、また茶々入れしちやだめえ？
竹ちゃんのオオンチン欲しい……

だあああめっ！
貴方の相手は私だけ！

くしゃん！！

……？





お姉ちゃんとのみよんな関係

この度は当サークルの本をお手に取っていただき、ありがとうございます。

当サークルも早いもので丸4年！年が明ければ5年目に突入です。
ちょっとした興味本位ではじめたわりには継続していますね。
新しい趣味を見つけようとしては、その度に失敗している私にしてみれば快挙です。

ただ毎回毎回の本作成にあたり、必要とされる熱量の多さに面喰っています。
やりたいことは次々湧き出てくるのに、私自身の時間と体力はどんどん下がっていくばかり。
いつかそれが逆転し、頭を抱える日が来るのではないかと心配しています。

しかしながら、この手の活動は回数を重ねるごとに面白さが増していくのも事実。
リアルとうまいこと付き合い、継続する方法を探すのもまた一興。
魅力あるキャラクターが数多い東方の世界、まだまだ終わることはできませんね。

tatsuya

原作 : 上海アリス幻楽団

発行 : Guild Plus

印刷 : 丸正インキ有限公司

号数 : 初版 2016.12.29 初配布

mail : super_sonico_saga@yahoo.co.jp

URL : <http://www.guild-plus.jp>

: http://pixiv.me/guild_plus(<http://www.pixiv.net/member.php?id=5306348>)

: https://twitter.com/guild_tatsuya



Guild Plus